神奈川建築コンクールの 60 年　～神奈川における近代建築の系譜

鎌倉市庁舎（設計：久米設計事務所、施工：㈱藤田組）、相模原市庁舎（設計：㈱日建設計、施工：㈱熊谷組）、日産自動車㈱追浜工場体育館（設計：大高建築設計事務所、施工：㈱藤田組）、日本オリベッティ中央倉庫（横浜市）（設計：丹下健三㈱都市建築設計研究所、施工：㈱竹中工務店）、富士フィルム葉山寮（設計：芦原義信建築設計研究所、施工：鹿島建設㈱）の 5 作品。

まさに「あの時代」を感じさせるラインナップといえましょう。

川崎市立市民会館

■　第 21 回、第 31 回のコンクール受賞作品

現在では取り壊され、なくなった名建築が昭和 51 年（1976）第 21 回コンクールにおいて一般建築物部門の最優秀賞を受賞しています。藤沢市労働会館（設計：群建築研究所、施工：㈱奥村組東京支店）、独特なフォルムを持つ印象深い建築物でした。経済活動の活発化に伴い建築計画が増えていった 1970 年代には、受賞分野がさらに広がりました。先ほど述べたように、昭和 46 年（1971）の第 16 回コンクールからは、マンション等の増加などもあり、集合住宅に特化した「集団建築部門」が新たに加わっています。

藤沢市労働会館

昭和 61 年（1986）第 31 回コンクールでは横浜人形の家（設計：㈱坂倉建築研究所、施工：㈱竹中工務店・日成工業㈱建設共同企業体）が一般建築物部門の最優秀賞を、南足柄市役所（設計：㈱佐藤武夫設計事務所、施工：清水建設㈱横浜支店）や横浜新都市ビル（設計：三菱地所㈱一級建築士事務所・㈱石本建築事務所、施工：横浜新都市センタービル新築工事建設共同企業体）などが優秀賞を受賞していますが、施工者が JV であるなど、これも時代の流れを感じさせる結果となっています。

■　平成の時代のコンクール受賞作品

平成 8 年（1996）の第 41 回建築コンクールでは、横浜能楽堂（設計：(有)大江宏建築事務　所、施工：竹中・住友・紅梅建設共同企業体）が一般建築物部門の優秀賞を、藤野芸術の家（仙田満＋環境デザイン研究所、施工：（芸術棟）日本鋼管工事・吉原建設特定建設工事共同企業体（宿泊棟）㈱松尾工務店）が同部門の奨励賞を受賞しています。

その後、神奈川建築コンクールは新たに環境や福祉、既存建築物有効活用に貢献する「アピール賞」を新設するなど、時代の社会的要請を受けて少しずつ変化しながら、今に至っています。

SALON 83 号では、第 1 回から 60 回、すなわち 60 年を積み重ねてきた神奈川建築コンクールについて特集してみました。

特集の最後に。

今年 6 月開催される平成 29 年関東甲信越建築士会ブロック会青年建築士協議会「かながわ箱根大会」のメイン会場の「湯本富士屋ホテル」（設計・施工：㈱竹中工務店東京支社）は、昭和 49 年（1974）第 19 回コンクールの一般建築物部門・優秀賞受賞作品です。箱根大会に参加される方々は、他都県からの参加者の方々に、トリビアな話題提供のひとつとして、神奈川建築コンクールについてや、県内の建築物の良さと近代建築の系譜について、ぜひよろしくアピールしていただきたいと考えます。

（文責：編集部・小笠原 泉）